

思いを具現化する社会科の授業～郷土を愛する児童の育成～

龍郷町立龍郷小学校 教諭 福元 佳寿美

はじめに

本校は、全校児童27人の小規模校です。龍郷湾に面し、2021年に世界自然遺産登録された奄美の美しい自然に囲まれた中で、児童はのびのびと過ごしています。しかし、周囲に素晴らしい環境や人材があることに気付かないこともあります。自分の育った郷土を愛し、誇りに思う児童に育ってほしいと願い、社会科の学習指導において取り組んでいることを紹介します。

教材化の視点の工夫 ー人材・地域素材ー

事例① 5年「水産業のさかんな地域」

社会科における地域素材の活用や人材の活用は、主体的な学びの実現に向けて必須だと思えます。教科書に記載された長崎漁港の学習と関連



【地域素材に関する資料】

させて奄美や鹿児島の水産業についても取り上げました。単元の終末では、「これからの我が国の水産業の在り方や奄美の水産業を守るために自分に



できることを考える」活動を位置付けました。龍郷漁協の漁師さんをゲストティーチャーとしてお招きし、児童の考えや意見を価値付けたり、奄美

【龍郷漁協の方の話】の海の環境を守るためにやっている事実から、思いや願いを話していただいたりしました。

事例② 6年「子育て支援の願いを実現する政治」

教科書に記載された埼玉県の子育て支援センターができるまでの政治や市民の関わりを学んだ後、龍郷町役場の「子ども子育て応援課」の方に龍郷町の子育て支援の状況について話をいただきました。その際、「今後、子育て支援センターを作るときには〇〇をつくってほしい」という児童の願いを提案させました。「親世代に必要なもの」



「子供世代に必要なもの」など多面的・多角的に考えた提案ができました。役場の方も児童の提案を参考にしたいと価値付けてくださり、政治は国民主権の考え

【子ども子育て応援課の方の話】の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを実感しました。また、地域の問題を取り上げたこうした対話的な学習活動の工夫は、社会参画意識を高めることに繋がると考えています。

社会科の見方・考え方の具体化

深い学びの実現には、児童が「見方・考え方」

を働かせて思考するように、単元レベルで授業を構想することが鍵となります。そこで、単位時間レベルで児童に発揮させたい見方・考え方を指導案に具体化しました。こうす

調べる	3 沖合漁業は、どのように行われているか調べる。 【漁業の分類に着目する見方】 【時間、協力体制と関係付ける考え方】	1
	4 水揚げされた魚が、食卓までどのようにして届くかを調べる。 【時間に着目する見方】 【価格と関係付ける考え方】	1
	5 つくり育てる漁業の取組について調べる。 【生産の安定・確保に着目する見方】 【養殖や栽培漁業の目的と関係付ける考え方】	1
	6 水産加工品について調べる。 【工場の立地場所に着目する見方】 【昔からの産業と関係付ける考え方】	1
	7 日本の水産業がかかえる課題について調べる。 【外国・輸入・労働人口に着目する見方】 【200海里水域と関係付ける考え方】	1

【学習指導案より】

ることで、どんな資料や発問が必要なのかを考えることができます。児童もこうした学びの繰り返しによって、生きていく上で必要な物事を理解し思考する力が身に付いていくと考えます。

おわりに

「新しく知ることはわくわくする。」「気になったことを自分で調べて発表することが好き。」と社会科好きの児童が増えてきています。今後も追究する楽しさを味わい、郷土を愛し、誇りがもてる児童の育成に力を入れたいと考えています。